様

アスパラガス特報

令和２年８月３日
ＪＡ中野市営農センター
ＪＡ中野市アスパラガス部会

本年は、立茎時期に降雨が続いたため、茎枯病の発生が多いです。発病茎からの２次感染も散見されます。茎枯病の病斑部の茎は取り除き、圃場外で処分してください。
また、今後気温の上昇に伴い発生の増加が心配されます。発生数の少ない時に防除して発生を抑えるのがポイントです。

１．薬剤散布　株の勢いが低下している場合は、アミノメリット特青 500 倍を加用する

★ハウス・露地栽培共通

散布時期	使用薬剤	希釈倍数	10a 当り散布量	薬剤調合		対象病害虫
８月上旬	ディアナ SC コサイド 3000	2,500 倍 2,000 倍	300 ﾘｯﾄﾙ	水 展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) ディアナ SC コサイド 3000	100ℓ 20ml 40g 50g	アザミウマ類 オオタバコガ ハスモンヨトウ 茎枯病、斑点病、 褐斑病
８月下旬	アディオンフロアブル アミスター２０フロアブル	1,500 倍 2,000 倍	300 ﾘｯﾄﾙ	水　（展着剤不要） アディオンフロアブル アミスター２０フロアブル	100ℓ 66ml 50ml	ﾖﾄｳﾑｼ、ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ (ﾋﾗｽﾞﾊﾅｱｻﾞﾐｳﾏ、ｱﾌﾞﾗﾑｼ類)、疫病 茎枯病、斑点病、 褐斑病
特別散布	【斑点病対策】 ラリー水和剤	4,000 倍	300 ﾘｯﾄﾙ	水 展着剤（ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ） ラリー水和剤	100ℓ 10ml 25ｇ	斑点病
９月上中旬	ダコニール１０００ 劇コテツフロアブル	1,000 倍 2,000 倍	300 ﾘｯﾄﾙ	水 展着剤（ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ） ダコニール１０００ コテツフロアブル	100ℓ 20ml 100ml 50ml	茎枯病、斑点病 褐斑病 ハダニ類、ヨトウムシ オオタバコガ ハスモンヨトウ、 （アザミウマ類）

＊樹勢低下園地で、農薬散布時にアミノメリット特青を加用する場合、展着剤は不要。

＊ハダニの発生が多い場合は、コロマイト乳剤 1000 倍液を定期散布に加用する。（但し、ボルドー液との混用不可。）

＊９月散布以降は、養分転流の促進と次年度への増収のため「PK ゴー」3,000 倍を加用し散布する。（展着剤は可用する）

＊土壌病害（立枯れ症状）が発生している場合は、９ 月上中旬の「ダコニール 1000」に代えて、「フォリオゴールド」の 1000 倍液を茎葉散布する。（ダコニール 1000、フォリオゴールド、プロポーズは３剤合わせて４回以内）

＊コアオカスミカメの発生が多い場合は、「ダントツ水溶剤 2,000～4,000 倍（３回以内）」、「ウララ DF　2,000 倍(３回以内)」、「コルト顆粒水和剤 4,000 倍(３回以内)」のいずれかを散布する

・アミスター20 フロアブル、ストロビーフロアブル使用の注意点（薬害の恐れがあるため）

①展着剤は使用しない。
②薬液の乾きにくい条件下（夕方・曇天時）では使用しない。
③雨露等でアスパラガスがぬれている状態では使用しない。
④果樹用のアミスター10 フロアブルはアスパラガスには使用しない。

● オオタバコガ発生状況
・オオタバコガの発生は平年より少なめで推移しています。しかし、今後気温の上昇とともに発生数の増加が見込まれます。８月上旬は重点防除時期となりますので、必ず定期散布を実施してください。

２．排水対策　　～土壌病害の対策～

地下水位の高いほ場や滞水しやすいほ場を中心に立枯症状や生育不良の園地が見られます。特に土壌病害は排水不良の圃場で発生が多い傾向です。土壌病害は一度発生すると年々被害が拡大していきますので、圃場内に水が溜りやすい場合は、排水溝を設けて停滞水の排水に努めて下さい。近年、雨の降りかたが極端になってきております。十分に注意してください。

３．夏肥の施用（10a 当たり）　～かん水と合わせると効果的～

☆露地は１０ａ当り 30kg、ハウスは１０ａ当り 20kg を８月上旬に「追肥グリーン２号」を追肥して下さい。
☆夏秋どりは、「追肥グリーン２号」を８上旬、中旬それぞれ 10a 当たり 10Kg 施用して下さい。
☆アスパラにょきにょきを元肥に施用した場合は、８月中旬に「追肥グリーン２号」をハウスは３0kg、露地は１５kg を追肥して下さい。

４．立茎数の制限と茎葉整理

（1）立茎数の制限（必要茎数の目安）

＊**1 株当たり**目標立茎本数の目安

	夏秋収穫する園地	夏秋収穫しない園地
立茎数	4～5 本	６本程度

※2 年目は 5～6 本

＊**1m 当たり**立茎本数の目安

	夏秋収穫する園地	夏秋収穫しない園地
立茎数	15～18 本 （長期どり 12～15 本）	20 本程度

＊立茎の太さはＬ級程度（3～4 本Ｌクラス、１～1.4cm 程度）の茎とする。

（2）茎葉整理

- 地上 30～40cm までの側枝や下枝は除去し、先端が垂れ下がったものは軽く刈り取る。
- 雨よけハウスでは、高温多湿で褐斑病等の病気を助長するため、茎葉を先刈りし、天井ビニールとの空間を開け換気する。
- 必要茎数を確保し、病茎や不良茎、倒伏茎は抜き取り焼却して下さい。
- ムレ、過繁茂防止のためにも積極的な夏秋収穫をして下さい
- 細い茎は８月下旬まで切り取り整理して下さい。
- 特に 2～3 年生の株で立茎数の多い「とらずして減収」しているほ場が見られます。積極的に間引き収穫を行いましょう。

５．かん水

＊灌水による生育・収量への効果は顕著です。昨年のように干ばつが続く場合は積極的に実施して下さい。
但し、急激に多量のかん水は落葉等の生理障害や病気発生（根腐れ）につながるので注意する。
＊夏秋どりをする圃場では、収量確保のためにも定期的に潅水を実施してください。

アスパラ茎枯病防除対策（露地用）
立茎期(8 月)における撲滅運動チェックシート

茎枯病は、防除だけで防げるものではありません。耕種的作業を含めた基本管理を見直し、撲滅に努めましょう。
実施した項目にチェックしてみましょう

- **うね面を有機物（敷き藁、堆肥等）で被覆しましたか□**
- **立茎数の調整をしましたか**
  夏秋どりしない場合 1m 当り 20 本（1 株当り 6 本程度）□
  夏秋どりする場合 1m 当り 15～18 本（1 株当り 4～5 本）□
- **夏秋どりをしましたか（立茎調整）□**
- **雨の多い時期、散布間隔をあけず殺菌剤を散布しましたか（10 日以上あけない）□**
  （10 日以内の散布はオオタバコガ対策としても重要）
- **発病した茎の抜き取りとほ場外への処分を随時実施しましたか□**